

未来へ繋ぐ税のバトン

板橋区立赤塚第二中学校 2年 佐藤 なな

「税金が高いなあ。」税についての作文を書こうとした時、おじいちゃんがつぶやいていた言葉を思い出した。そのおじいちゃんは、昨年5月に68才で亡くなってしまった。つぶやいていた言葉の意味は分からず、尋ねる事ももうできない。自分で調べてみる事にした。おじいちゃんは会社を経営していたため、所得税の他にも法人税をたくさん納めていた事が分かった。働きはじめてから約45年間、ひと月もかかさずしっかり税を納めていた。

そして調べていくうちに疑問がでてきた。税金により年金、医療、福祉、教育、公共サービスが支えられている。病気になった時や老後の安心の為の貯金とも言えるのではないだろうか？しかし、おじいちゃんは頑張ってたくさん働いて納めていたのに、年金も医療も福祉もあまり受ける事なく亡くなってしまった。納めてばかりで自分は貰えなかったなんて悲しいし、可哀想だと感じた。おじいちゃんの納めていた税金は一体どこへ行ってしまったのだろうか？ちゃんと使われているのか、誰に使われているのか？無駄にされていたらもったいない！雑な使い方をしている人がいるならきちんと使ってほしい！その行方を知りたいと思った。

令和2年度の歳出額内訳をみると、社会保障や公共事業、教育、地方交付金に約70%があてられていた。病気になってしまったら病院へ。万が一の場合は警察や消防、救急へ。整備された安全な町で安心して学び、働き誰もが暮らしていける。その日々のために税金が使われていた。あたりまえにある日常のために。朝起きて、ゴミをだし、綺麗な道で信号を渡り学校へ行く。おいしい給食を食べて帰宅後図書館で好きな本をたくさん借りる。時には風邪をひいたり持病の鼻血で病院へ行き綺麗な水で体を洗い寝る。

おじいちゃんの納めていた税金の行方。使っているのは他でもない。私だった。

これから先、事件や事故にあってしまうこともあるかもしれない。きっとその時は警察や救急に助けてもらうのだろう。今の私だけではなく、未来の私も守られている事に気づいた。この平和な日常がいつまでも続くように、大切な人誰もが守られ続けるように、大人になって働くようになったら私も税金を納めたい。そのために今はしっかり勉強をして高校に行き、さらに学びたいと思う。

過去から現在。現在から未来へと税のバトンを繋ぐリレーの中に私はいる。たくさんの人々が繋ぎ、築いてくれた助け合える今に感謝したい。そしていつの日か「高いなあ」とつぶやけるくらい税金を納めて感謝される側になりたい。